

76. アイヌ民族の衣類構成について（第5報）

東京家政大 村中智恵子
荒井 純子

1. 私共は先年学生と共に観光の旅に出た北海道で、北大児玉教授の長年蒐集された宝庫を訪れ、アイヌ衣類の美しさに心をひかれた。その際教授は「アイヌ老人はだんだん亡くなってしまふ、この美しい衣服も少なくなってしまうし衣類に関しての文献も研究も少い」と洩らされた。私共は被服を専攻する者の立場からこの民族の素晴らしい衣服を探求してみたいと思ひ、教授の御指導の元で材料繊維の採集から着装にいたる衣類全般について微力ながらも老人達の生存しているうちに研究をすすめたいと思ふ。

2. 第1報 アイヌ民族の衣類に用いられている材料繊維及びその採集方法 第2報 アイヌ衣類に施されている刺繍（基本的なもの）第3報 刺繍（応用とみられるもの）第4報 厚司織について、以上の4報を発表した。

3. 前回自製織物厚司を織る織機について発表したの今回はその織機の各部品の配列及び機能について述べ、糸のととのえ方、織り方等先年児玉教授令嬢がアイヌ婦人より伝授された操作方法によって織っている姿に接し私共も自ら体得する機会を得これが彼等祖先の用いていたものと同様であることをたしかめ得たので、その操作方法織り方についても発表し、彼等の先代人の衣生活について偲びたいと思ふ。